



SOJITZ IR DAY 2018
機械・医療インフラ本部

2018年9月3日
双日株式会社
機械・医療インフラ本部長
草野 成也



目次

- ◆ 本部概要
- ◆ 本部方針・成長戦略
- ◆ 事業紹介
 - 医療インフラ事業
 - 産業機械・軸受事業
 - プラント・プロジェクト事業
 - 双日マシナリー
- ◆ 更なる成長へ向けて

将来情報に関するご注意

資料に記載されている業績見通しは、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済状況や為替相場の変動など様々な要因により大きく異なる可能性があります。重要な変更事象等が発生した場合は、適時開示等にてお知らせします。



本部概要



医療インフラ事業部

- 日系初の海外大型病院PPP事業参画となったトルコ・イキテリ病院事業を通じて、他社に先駆けPPP事業運営ノウハウを獲得



プラントプロジェクト部

- 長年の実績、提案力、パートナーとの信頼関係、設計・建設・ファイナンス・運営なども含めたトータル・ビジネススキームの組成力



産業機械・軸受部

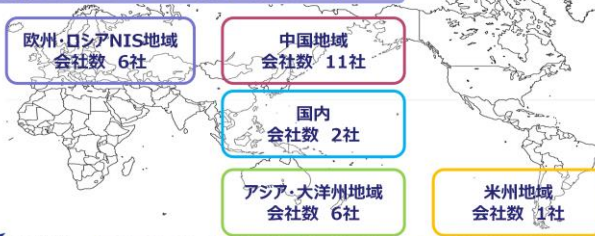
- 広範な産業を支えるベアリング並びに半導体/電子関連製造設備・ロボットを核としたバリューチェーン構築による強みを生かした事業展開



双日マシナリー

- 産業機械の専門商社（先端システム事業、化学・環境プラント事業、重工プラント事業、産業機械事業、自動車設備事業）

関係会社（連子・持分合計26社）



従業員数

本社：80名
海外：26名
双日マシナリー：246名
2018年8月1日時点



Copyright © Sojitz Corporation 2018 3

- 当本部は、医療インフラ事業部、産業機械・軸受部、プラントプロジェクト部の3営業部と中核子会社である双日マシナリーから構成されている。
- 医療インフラ事業部は、トルコのイキテリ病院PPP事業を確実に立上げ、今後同種のPPP案件を世界展開していく、更には周辺の医療関連事業に取り組んでいくことから、今年より部に昇格し体制強化を図っている。
- 産業機械・軸受部は、産業の米とも言われるベアリングの物流トレードのみならず、中国を中心にベアリングの製造事業にも出資を行っている。
- 産業機械関係としては、表面実装機、これは半導体を主力とした電子部品をプリント基板に配置する装置だが、これを主に中国・東南アジア地域にて取り扱っている。
- プラントプロジェクト部は、従来より重工・エンジニアリング会社と組み、これまでは主にロシア・NIS地域で石油化学・肥料プラント等の大型EPC案件を推進してきた。
- 当本部は、本社で80名、海外で26名、中核事業会社の双日マシナリーで246名の陣容となっており、また、国内・海外で合計26社の連結関係子会社を有し、世界各地で事業展開をしている。



本部方針・成長戦略

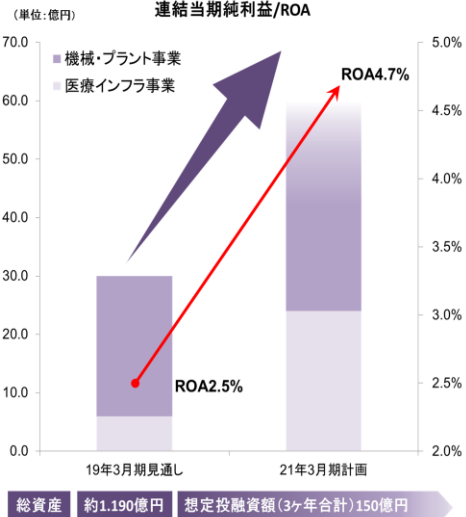
【本部方針】 「医療インフラ事業」、「産業機械・軸受事業」、「プラントプロジェクト事業」を三本柱とし、物流トレードと事業投資の両輪で収益を拡大。

【事業環境の変化】

- ・新興国の経済発展・生活水準向上に伴うインフラ需要の高まり
- ・世界的な環境規制に伴う先端技術・ノウハウの導入ニーズの高まり
- ・産業社会の電子化・自動化、生産性向上ニーズの高まり

【成長戦略】

- ・医療インフラ事業は、トルコ病院PPP案件の確実な立ち上げ。新規PPP案件開発、医療関連インフラ提供・物流トレードなど取組みを深化。
- ・産業機械・軸受事業は、サプライチェーン構築と事業投資による物流収益の拡大。
- ・プラントプロジェクト事業は、従来のEPCビジネスに加えて、事業投資によるビジネスモデル及び収益ポートフォリオの転換。
- ・双日マシナリーは、取組案件の規模拡大と投資による関連物流収益の拡大。



Copyright © Sojitz Corporation 2018

4

- 当本部は、「医療インフラ事業」、「産業機械・軸受事業」、「プラントプロジェクト事業」の3事業を中心に、物流トレードと事業投資の両輪で収益を拡大させていくことを基本方針にしている。
- 定量計画として、今期19年3月期は、当期利益30億円、ROA 2.5%の見通し。本中計期間中に約150億円の新規投融資を実行し、2020年までにROA4.7%を目指す。
- 当本部を取り巻く事業環境に関して、以下3つの変化があると認識している。
 - ・新興国の経済発展・生活水準向上に伴うインフラ需要の高まり
 - ・世界的な環境規制強化に伴う、先端技術・ノウハウ導入の必要性
 - ・産業社会の電子化・自動化と生産性向上ニーズの高まり
- このような事業環境の変化を的確に捉え、医療インフラ事業部は、先ず現在取り組んでいるトルコのイキテリ病院PPP案件を確実に立ち上げ、その知見を活用して世界展開を図っていく。これに加え、医療関連設備のトレード及び医療関連サービス事業にも積極的に取り組んでいく。
- 産業機械・軸受事業部は、ヘアリング商売及び実装機商売においても、物流トレードのみならず、積極的に事業投資を行い、部品メーカーから販売会社までのサプライチェーンを構築し、事業投資による物流収益拡大を目指している。
- プラントプロジェクト部は従来のEPCビジネスに加え、事業投資によるビジネスモデルの転換、及び収益ポートフォリオの転換を計っていく。
- 双日マシナリーは、多種多様な産業機械を取り扱っているが、一つ一つのビジネスの規模拡大、及び投資による関連物流収益の拡大を目指していく。



事業紹介① - i 医療インフラ事業

トルコ病院PPP 事業概要

契約先	トルコ共和国 保健省	
パートナー	トルコ・ルネサンスグループ	
出資比率	総事業費	2000億円
	事業会社	30%出資
	施設管理会社	49%出資
スケジュール	2017年 10月	着工
	2020年10月	開院
	事業期間	28.5年間
病院規模	総病床数	: 2682床
	敷地面積	: 100万㎡
	想定利用者数	: 65,000人/日
	医療関係者数	: 4,500人
	建設期間	: 36ヶ月

- ・ 日系企業「最大」の病院PPP事業投融資案件。
- ・ トルコ「最大」級のゼネコンと組んでの案件取り組み。



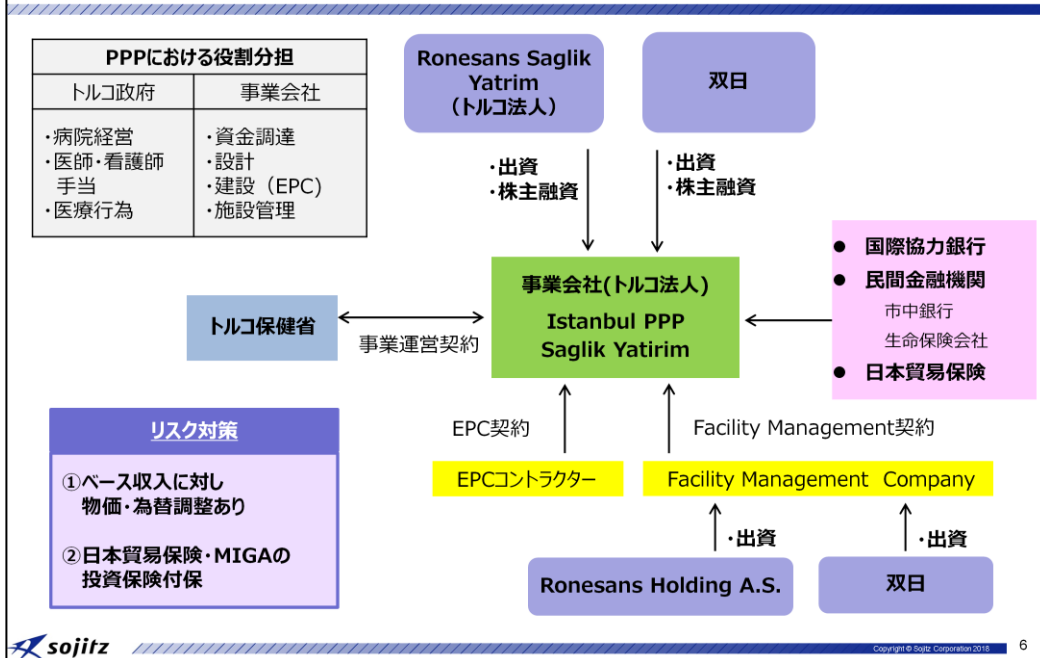
当社の役割

- 事業投資
- プロジェクトファイナンス融資組成
- Facility Management (施設管理)
- 日本製医療機器の紹介

- トルコのイスタンブールに2,682床の総合病院を建設する本事業は、日系企業で初の海外大型病院PPP事業であり、当社の歴史の中でも最大級の投融資案件となる。
- 本事業は、トルコでの病床数の不足を解決するために、トルコ保健省が計画した公立病院の整備計画の柱となる事業で、中でも本件は、一般病棟、循環器病棟、癌病棟、婦人病棟、小児科病棟、整形外科病棟、理学病棟を含む新設の総合病院として、一連の計画の中では最大規模の病院となる。
- 本件は官民連携によるPPP形式で進められており、総事業費は約2,000億円。トルコ最大級のゼネコンであるルネサンスグループをパートナーに、トルコ保健省との間で28.5年間の事業運営契約を結んでいる。当社は300億円を拠出し、事業会社の30%のシェアを持つと共に、施設の管理運営会社の49%のシェアを保有している。
- ルネサンスは1993年に設立された会社で、トルコで第2位のゼネコンである。当社は2009年以降、ロシア・NIS地域で6件のEPC事業の協業を行っている。ルネサンスもEPC事業から事業モデルの転換に取り組んでおり、建設以外に、不動産開発や、電力も含めたインフラ・コンセッション事業を展開。病院PPPに関しては本件を含めて6件を受注しており、その中でも最大規模である本件につき、当社との協業をルネサンスより打診されたものである。
- 本件の規模は、病床数2,682床は日本最大の病院である東京女子医大病院の2倍、敷地面積100万平方メートルは、東京ディズニーランドとディズニーシーを合わせた広さとなる。建設は昨年10月からスタートし、工事は計画どおり順調に進捗しており、2020年10月の開院を予定している。当社の役割は、事業投資、プロジェクトファイナンス融資組成、ファシリティマネジメント、日本製医療機器と日本式医療の紹介となる。



事業紹介①- ii 医療インフラ事業/トルコPPP病院

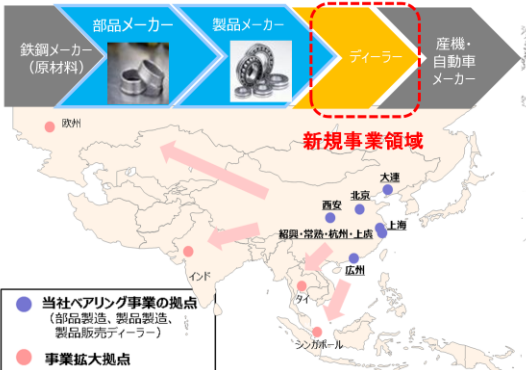


- 本件における官民の役割分担について、当社が出資する事業会社の役割は、資金調達、病院の設計、建設、建設後の施設の運営とそれに伴う付帯サービスの提供であり、医療行為には関与していない。一方、トルコ政府側の役割は、病院経営、医師や看護婦の手当、医療行為となる。
- 2,000億円の資金に関しては、ルネサンスと当社の出資に加え、国際協力銀行及び民間金融機関6行による協調融資により賄われるが、うち5行が邦銀・日本の生命保険会社であり、この協調融資部分にはNEXIの海外事業貸付保険が付与されている。
- 本件のリスク対応として、プロジェクトからのベース収入に対しては物価変動・為替変動に伴う調整メカニズムがあり、これに加え、当社の出資部分に対しては、NEXI/MIGAの投資保険を付保している。



事業紹介② 産業機械・軸受事業

【産業の米と呼ばれるベアリング事業】

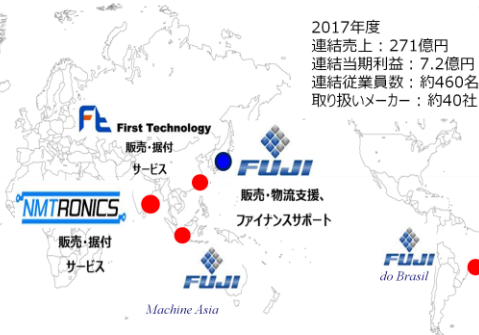


- 当社ベアリング事業の拠点
(部品製造、製品製造、製品販売ディーラー)
- 事業拡大拠点

- 鋼材～部品販売・製品販売までのサプライチェーン構築。
- 事業投資による物流収益の拡大。
- 日本精工拡販のための製品販売・合併製造事業

- ① 中国事業の深堀り：ディーラーとの共同事業・OEM事業
- ② 他地域（欧州）への拡大展開：地産地消

【実装機・半導体・ロボティクス関連事業】



- 世界トップシェアを誇るFUJI製表面実装機の販売会社を中国、東南アジア、インド、ブラジルで展開。
- 周辺機器・部材など電子・半導体分野の顧客や、EMS（電子機器受託製造サービス）にトータルソリューションを提案。
- 自動化・省人化ニーズに対応する為、Sier機能を拡充し、ロボティクスソリューションプロバイダーを目指す。



- ベアリングについては、主力製品である日本精工社のベアリングを中国の販売ディーラーと共に中国国内で販売しているが、中国ではベアリング及びその部品製造会社に共同出資もしており、その製品を中国国内および海外に販売している。
- 従来、海外の生産拠点は中国地域に限られていたが、前中計期間より地域の拡大を目指しており、中国以外での投資第一弾として、前中計においてスペインの部品製造メーカーのNANO社に出資をした。NANO社を核に今後は中国アジアだけでなくヨーロッパのベアリング事業に関しても事業展開を図りたい。
- 産業機械については、FUJI社（旧富士機械）をパートナーに、実装機の販売会社をアジアを中心に展開している。
- 今後は、中国、東南アジアのみならず、市場拡大が見込まれるインドやブラジルへの展開も考えている。



事業紹介③ プラントプロジェクト事業



- プラントプロジェクト事業は、人脈や経験で強みを有するロシアや中央アジアを中心に、大型肥料プラントや化学プラントの納入実績を有している。
- 従来は、日系重工メーカーとコンソーシアムを組んで、大型のEPC案件を受注しているが、機能強化を図るべく、今般タイの上場エンジニアリング会社であるTTCL社の10%増資を引き受けた。
- TTCL社のエンジニアリング機能と当社が持つ案件開発能力を掛け合わせることで、今後アジアで期待されるインフラ事業への拡大を図るのが狙いである。
- 今回のTTCL社への出資を通じて特にアジア地域で旺盛なGas To Powerなど発電インフラ事業及び環境関連の事業等のインフラ投資も含め、事業のポートフォリオと収益構造の変換を考えている。



双日マシナリー 会社概要

◆双日マシナリー株式会社概要◆

- 商号：双日マシナリー株式会社
- 資本金：15億円
- 設立年月：2004年4月1日（創立1989年10月1日）
- 社員数：246名（2018年8月1日現在）
- 所在地：東京都千代田区丸の内1-6-1
丸の内センタービルディング2F
大阪支社/名古屋支社
- 事業内容：各種生産設備・部材等の販売
“産業機械の総合商社”
- 主要海外拠点



本部	注力領域
先端システム本部	 <ul style="list-style-type: none"> ・リチウムイオン電池製造装置及び部材 ・半導体、太陽光関連設備及び部材 ・食品加工機械
重工プラント本部	 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄・非鉄関連製造設備 ・圧延機・グラインダー ・金属加工関連設備
化学・環境プラント本部	 <ul style="list-style-type: none"> ・石油・ガス・化学プラント設備 ・繊維・不織布関連製造設備 ・環境・リサイクル機器 ・林業機械
産業機械本部	 <ul style="list-style-type: none"> ・電機・冷熱関連製造機器・設備 ・繊維機械等一般産業機械設備 ・フォルスター・ジャパン・ワインセラー
自動車設備本部	 <ul style="list-style-type: none"> ・中国、インド市場への大型設備投資案件の取り込み（パワトレ設備） ・マツダ・トヨタ米国新合弁会社への設備納入、並びに老朽化更新 ・EV、FCV用設備・部品



Copyright © Sojitz Corporation 2018 9

- 双日マシナリーは、5つの営業本部からなる。
- 先端システム本部は、リチウムイオン電池の製造設備を担っているが、固体化電池の製造能力を有している企業への投資も実行している。最先端分野でのリチウムイオンの製造装置の拡販や半導体、太陽光関連の設備等を中心に取扱いを増やしていきたい。
- 重工プラント本部は、当社グループの国内外の製鉄プラント事業を一手に手掛けている。
- 化学・環境プラント本部は、石油、ガス、化学プラント、繊維、不織布関係等の事業を手掛けている。不織布分野では、当社が日本向け総代理店を務めている世界最高水準のドイツのライコフィル社製の設備を取り扱っている。
- 産業機械本部は、電機、冷熱関係及び繊維機械等が主力である。また、国内ワインセラー市場の半分のシェアを誇るワインセラーブランドのフォルスター・ジャパンを持ち、独自に展開をしている。
- 自動車設備本部は、自動車製造設備の取扱いをしており、中国、インド市場での大型設備を納入している。現在スズキ自動車が進めているインドの自動車工場及びアイシン精機が中国で展開している工場向けに主要設備を納入している。



更なる成長へ向けて

- **医療インフラ事業**
 - トルコ案件の確実な立ち上げと中南米・中近東・東南アジア等への横展開
 - 医療付帯サービスへの展開
- **プラントプロジェクト事業**
 - 事業投資実行によるビジネスモデル転換
 - 環境リサイクル事業への取り組み等、インフラ事業領域拡大
- **産業機械・軸受事業**
 - 軸受ディーラー買収等、事業投資による物流収益拡大
 - インド・ブラジル等への実装機拡販
- **双日マシナリー**
 - 取組案件の規模拡大
 - 投資による関連物流収益の拡大

- 当本部の更なる成長に向けて取り組んでいく上で強調したい点について、医療インフラ事業は、まずはトルコ・イキテリ病院を確実に立ち上げることに注力するとともに、この知見を活かし、同種のPPPプロジェクトを世界展開していく。また、医療関連の付帯設備及び付帯サービス事業にも積極的に取り組んで行く。
- プラントプロジェクト事業は、事業投資の実行により従来のEPCビジネスのみならず、事業投資から生まれる新しい収益をベースとしたモデルの転換を図っていく。
- 産業機械・軸受事業は、製造から販売へのサプライチェーン構築による物流収益の拡大を図る。実装機関連については、実装機のみならず、付帯設備も取り込みながら最終的にはシステムインテグレーターとしての機能の獲得を図る。
- 中核事業会社の双日マシナリーは、取組案件規模の拡大及び事業投資による物流収益の拡大を目指す。



sojitz

New way, New value